

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500673
法人名	有限会社 うえだ企画
事業所名	グループホーム かやぜの里
所在地 (電話番号)	長崎県大村市田下町473-1 (電 話) 0957-55-6796

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成20年2月7日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(19年9月1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 6月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 9人, 非常勤 1人, 常勤換算	8人

(2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造 造り	
	2階建ての	1階 ~ 2階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(30,000 円) 無		有りの場合 償却の有無	有(期間:3年)
食材料費	朝食	200円	昼食	300円
	夕食	400円	おやつ	100円
	または1日当たり		1,000円	

(4)利用者の概要(9月 1日現在)

利用者人数		9名	男性 2名		女性 7名
要介護1		3名	要介護2		1名
要介護3		1名	要介護4		2名
要介護5		2名	要支援2		名
年齢	平均	82歳	最低	69歳	最高 93歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	吉田内科クリニック医院 牧山医院 祐田歯科医院
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山間の静かな場所に位置するホームの外見は民家と区別する事が難しい位、周囲に溶け込み玄関前は中学校のグラウンドが広がり、近くの保育園児の散歩コースにもなっており、元気な明るい声が何時でも聞こえる和やかな雰囲気である。廊下の片隅や2階のベランダにはソファや椅子が置かれ、気の合う者同士が気楽にくつろげるような配慮がされ、ベランダからの眺めは杉山や田畑等ホット寛げる気持ちになれる。代表者が自作の米や湧水を持ち来られる等自然の恵みが一杯に詰まった食事に心掛け、旧来の知人による入居者の健康管理に配慮され、安心した生活の確保に努めている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	①本人の希望等について意識して話し合いを行い介護計画に反映するよう努めている ②看護職員を中心にマニュアル整備をすると共に外部研修への参加の機会を確保しスキルアップが図れるよう努めている③業務全体について職員が話しあって決め、お互いに助け合いチームワーク作りにつなげている
②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
③	外部評価の項目の変更についての説明を行い、管理者・計画作成担当者が職員に意見を聞きながら自己評価を行い代表に確認して貰った。自己評価に取り組んだ事で内容についてや項目の理解が難しい部分、職員の理解度を把握する事が出来たと共に、改めて見つめ直しケアの在り方等反省する機会となり、改善に向けた取り組みにつなげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
②	公民館や昼食会を兼ねてホーム内で開催する会議の中で、入居者・家族の参加についてや職員の離職についての意見を頂き、ご家族も参加されるようになり希望等言ってもらったり、職員の気持ちを捉え一緒に作り上げていく関係作りに取り組み始めた。市町村との連携を深めていく為にも推進会議以外に、提出物・報告事項やホーム便りを持って行ったり相談や対外的な事を主任が担当し、改善状況等の報告の中でホームの現状・今後取り組んでいきたい事等を理解して頂けるよう継続的に行っている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
③	家族其々の知りたい事の違いを把握し、個別の状況についてその都度電話で報告したり、来訪時や電話で生活場面での良い事を中心にお伝えする事を意識し、安心して頂けるよう配慮している。担当者から身体・レクリエーション等の生活状況を家族便りとして送付したり、意見箱の設置・手紙や来訪時等ご意見を頂けるよう常に問いかけ繰り返しお伝えする等、今後も職員の負担が増えないよう無理なく続けていこうとしている。職員の定着についても職員が楽しく仕事が出来ることが入居者に寄り添うケアにつながる事と考え、休み時間を利用する等職員の気持ちの把握に努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
④	小中学校の運動会・神社の祭りに参加していたが、入居者のADLの低下等により参加の機会は減少し、中学校の職場体験の受け入れも台風の為中止になったり、ドライブや行事等の取り組みも職員の定着率の低下と共に、ホーム全体の活気が低下してきている。ホームで餅つきをして向かいの中学校へ持って行ったり、近所の方から野菜を頂いたりボランティアの慰問や散歩途中の園児の立ち寄り等の交流は継続されている。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中でという思いを込め職員と共に“明るく楽しく元氣よく自分らしくありのままに”と開設時に理念を定めた。開設当初の職員が管理者となり自己評価を行う中で理念を見つめ直し、地域密着型サービスとして皆が意識できるようH.20. 1“地域の中で”と言葉を盛り込んだ。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	介護に携わる事自体初めての職員が多く、地域密着という言葉の深い意味を理解しているとは言い難い。職員の交代が落ち着かず理念を十分に理解し深める事が出来ず、実践に結び付ける為の話し合いには至っていない状況であるが、職員会議で理念を唱和し入居者も職員も“元氣よく自分らしく”と伝える取り組みを始め、ケアを通して少しずつ理解し、理念の共有・につながり始めている。	○	会議の中で管理者が理念を伝え続けていき、入居者だけでなく職員自身が明るく元氣にありのままの姿で働くという思いも含まれている事が理解でき、皆で課題や解決の方策を見つけながら検討を重ね、理念の共有につなげられる事に期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	開設後暫くは小中学校の運動会・神社の祭りに参加していたが入居者のADLの低下等もあり、ここ一年位参加の機会は減少し中学校の職場体験の受け入れも台風の為中止になったり、ドライブや行事等の取り組みも職員の定着率の低下と共に、ホーム全体の活気が低下してきている。ホームで餅つきをして向かいの中学校へ持って行ったり、近所の方から野菜を頂いたりボランティアの慰問や散歩途中の園児の立ち寄り等の交流は継続されている。	○	管理者が職員の離職理由等も含めホームの課題を整理して、長期的な取り組みの計画を作成し、理念を常に意識し目指す姿を目に見える形にし“挨拶からだけでも”無理のない形で交流していきながら、地域で暮らし続ける為の基盤作りに取り組んでいかれる事に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の項目の変更についての説明だけであったが、管理者・計画作成担当者が職員に意見を聞きながら、自己評価を行い代表に確認して貰った。自己評価に取り組んだ事で内容についてや項目の理解が難しい部分、職員の理解度を把握する事が出来たと共に、改めて見つめ直しケアの在り方等反省する機会となり、改善に向けた取り組みにつながっている。	○	外部評価の目的や結果の活用方法について理解を深め、職員も含めて自己評価・改善策を話し合いながら、新たな視点でより良いホームに向けて取り組みがされるよう期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者の参加はないが昼食を戴きながらホーム内で開催する事もあるが、公民館で町内会長・地域住民・民生委員・包括支援センターを交えた会議の中で、職員の離職について心配される声や家族・入居者の参加について質問を頂いた。ご家族も参加されるようになり希望等言っているが、意見交換が活発な状況とは言えず全体的に堅苦しい雰囲気である。	○	入居者が参加できる機会や場所も含めてホーム内で食事をしながら、より良い方向を目指す為の意見を言ってもらえる方や、家族にも気軽に参加して頂き雑談のような中で、意見が活発に言える雰囲気を作り、明るく楽しいホームを共に育てられる事に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	今迄は代表が市役所を訪問する事が多かったが、提出物・報告事項やホーム便りを持って行く等、対外的な事は主任が担当し工事について等相談している。高齢福祉課の係長を訪ね改善状況等の報告の中で、ホームの現状・今後取り組んでいきたい事等を理解して頂けるよう継続的に行っている。	○	管理者が交代してからの挨拶も兼ね、運営推進会議の議事録を持って何う等市町村窓口へ出向く機会を増やし、連携の強化に努めサービスの質の向上に取り組まれる事に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族それぞれの知りたい事の違いを把握し、来訪時や電話で良い事を中心にお伝えする事を常に意識し、安心して頂けるよう配慮し、個別の状況について疾患・健康状態や受診結果等はその都度電話で報告し、受診料や必要品の買物は立て替え、領収書をお渡ししている。記入する職員が固定化してきているが、担当者から身体・レクレーション等の生活状況を家族便りとして送付しており、今後も職員の負担が増えないよう無理なく続けていく予定である。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族から意見・不満・苦情等頂けるよう意見箱を設置しているが、意見等は手紙や来訪時等常に問いかけ繰り返しお伝えしている。職員の定着について心配されている様子が有り「頑張りよ、よろしく」と力づけられている。H. 19.11より運営推進会議に家族も参加して頂き意見を頂き、記録を残し運営に反映出来るようにしている。	○	お便りや家族の方皆に声をかけ推進会議の場を活用し、意見交換が出来る場を増やしていき、率直な意見を基に運営に反映出来る事に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	早出・遅出の調理担当や夜勤の専門職員を配置したり、離職を減少させる為に休みの希望に極力応じ、主任が少人数毎に話しを聞く場を作っている。管理者は個別に悩み・不満等を聞く機会を持っているものの、職員の関心が高まっている状況ではない。管理者・主任・看護師が現場での助言・指導を行っているが、職員毎の段階的な育成計画等の作成までは出来ていない。	○	職員との会話を増やして信頼関係を築き、離職を減少させようという思いと、管理者の視点でありながら職員との関係をより近いものにしていく事で、共に目指す方向を同じにし楽しく仕事ができる職員の定着率をあげる為にどうすれば良いのか、全員で話し合い入居者が馴染みの職員からケアを受ける事が出来るよう、今後の取り組みに期待していきたい。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員定着が難しい現状であり、外部研修に出来るだけ参加出来るよう声かけはしているが参加の機会は減っており、ミーティング時にケアセミナーの伝達やケア技術の研修を行っているものの、職員の関心が高まっている状況ではない。管理者・主任・看護師が現場での助言・指導を行っているが、職員毎の段階的な育成計画等の作成までは出来ていない。	○	新人として理解して欲しい事や伝えなければならない事、自己の目標・ホームとして期待する事等を明確にし、目標に即した研修会等に参加できるような計画を作ると共に、ホーム内でも研修の場を増やしていかれるよう期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市グループホーム連絡協議会での事例発表・研修会に主任が出席し、職員は“各駅停車”に参加したり、相互訪問や勉強会に参加している。	○	職員対象の勉強会等も参加者が限られているのが現状であり、参加の機会・場所を増やし、職員同士が交流できるよう今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に代表が自宅場所や環境等の情報収集に行ったり、本人・家族に見学に来て頂き入居の説明も家族がされ、安心と納得して頂けるよう馴染みの物を持って来て頂き、家族に頻繁の訪問をお願いしたり希望に沿えるよう配慮している。入居時の窓口として代表にお願いしながら、必要時は管理者が訪問できるよう体制は整えている。	○	アセスメントシートの改善に取り組んでおり、本人・家族の協力を得ながら入居前の生活状況をシートに沿ってアセスメントしたり、入居前の訪問を管理者や職員が行う事で、ホームで安心して暮らせるよう今後の取り組みに期待したい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ばせ、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の得意な事を家族からお聞きし、調理・農作物・花の手入れの方法等、教えて頂く場面を作るよう努めているが業務に追われ、入居者との会話の時間も限られ学ばせて頂いているとは言えない場面もある。入居者の方から名前と呼ばれ、自分の存在が認められ嬉しさや、支えられている事を感じているが全職員が喜怒哀楽を共にしたり、支え・支えられていると感じているとは言い難い。	○	人生の先輩であるという事を念頭に置き、職員が常に意識して行動し、入居者のペースに合わせてゆとりを持って寄り添うケアが出来るよう、勉強会を行う等今後の取り組みに期待したい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いの表出が困難な時も、行動・表情や言葉かけの中から思いを汲み取ったり職員から話を聞いて、飼っていた犬の餌やりや毎食後自宅まで残飯を持って行ったり、皆で近所に柿を採りに行き三時に食べたり、皆の表情が見えるように輪になって歌を歌う等している。家族来訪時に意識して生活歴・習慣・趣味等をお聞きすると共に、センター方式を取り入れ入居者主体で意向の把握し続けている。	○	職員は入居者主体で考えているが自宅に伺ったり電話等で、今後も家族に話をお聞きする機会を増やし思いの把握に努めていかれると共に、職員に希望や意向等を伝えやすい雰囲気を作っていくと共に、管理者・主任と共に考え新たなスタートを切りたいと考えており、今後の取り組みに期待したい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	その人らしく暮らし続ける為の個別・具体的な課題・目標は記載され、今迄の生活を活かし買い物や町内の出来事を伝える等、地域で暮らす視点が計画の中に反映されている方もいる。体力的に難しい方もホーム内での生活を充実させ、地域との接点を持つ事に主眼を置き家族の話をお聞きしているが、十分に意見を言っているとは言えない。計画作成時、内科医・歯科医のアドバイスを頂き職員の意見・気付きを基にケアマネジャーが中心に作成している。	○	課題抽出の為にも家庭訪問を行う等、家族の方が本音を言える場を作っていきたいと考えており、ケアプランを中心に家族と話し合いながら、ご本人の思いや家族の意向を計画に反映させケアが充実される事に期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の身体状況の変化や要望の変化がある時だけでなく、新たな気付きや意見が出された時には、会議や日々のミーティングで話し合い臨機応変に計画の見直しを行い、職員間で情報を共有し日々のケアに反映させているが計画に反映出来ていない事もある。状態・要望に変化が見られない入居者についても月に1回程度は計画の検討を行っている。	○	状況に応じた柔軟な計画の見直しを継続されると共に、短期目標の設定時期間を検討する等、現状に即した新たな計画の作成に結びつけられるよう今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	毎食後、犬の餌やりに職員が同行したり買い物や“念仏講”に行く為にイワシを買いに行き、酢漬けを作る等の外出支援を行っている。往診や訪問看護師と何時でも相談や対応して頂いており、必要に応じて入院治療となった時には、代表がお見舞いに伺い医師と情報交換を行う等早期退院につながっている。ホーム内の看護師が共に相談しあい異常の早期発見や医師との連携を図り、家族の安心感につながっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望する医療機関をお聞きし、代表のが長年の知人である協力医療機関で受療して頂いているが、入居者の元々のかかりつけ医である等、すべてのかかりつけ医に何時でも相談できる関係が保てている。皮膚科・眼科等専門医については代表が通院介助を行い、何か変化がある時には速やかに報告し、特に変化がない場合は月次報告でお伝えしている。家族が通院介助された場合も結果について十分把握できている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りについてや医療連携について説明し、入居者・家族の意向等、特別な事情がある方を除いてほぼ全入居者について把握している。今迄、ホームでの看取りの事例はなく、繰り返し話し合いをしているとは言えない状況であるが、退去・転居時には職員と一緒に話し合うようにしている。	○	終末期の支援について家族・職員と一緒に話し合うと共に、今後ホームとしてどのように対応できるのか職員と話し合い、方針について等再度の見直しや検討をされ、関係者全員で方針が共有される事に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の感情が言葉に入って強い言葉になっていたり、目上の方に対する言葉使いや“ダメよ”と制止したり等気になる時がある。介助時や誘導の声かけも自尊心・羞恥心の配慮に欠ける事があったり、時に否定的・指導的な言動になっている。個人情報保護法の理解や漏えい防止について伝えているが、職員の定着が安定しない為、全職員が理解しているとは言えない。	○	目上の方に対し尊敬の念をもって接するよう常に意識し、プライバシーの確保を徹底すると共に、個人情報保護についても新入職者を含め研修を行い、職員同士でお互いに注意し合う等今後の取り組みに期待したい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	洗濯物をたたんだり一緒に家事をするように努めているが、ADL低下等もあり出来る方が偏ってしまい、寄り添ってのケアが少なくなっている。食事の誘導や口腔ケアについても無理強いしている場合もあり、ゆっくり本人のペースで支援する一方、職員のペースで進めてしまう時があり食事・入浴・家事について等、健康に支障のない範囲で本人が納得される迄ゆっくりして頂く場面は少ない。	○	職員のペースになっている具体的な場面を提示し、少しでもゆったりした時間を考える事や個別性のある支援を考えていくと共に、短時間でも一瞬一瞬の楽しみを作る事が、入居者にとっての役割意識や生き生きとした生活につながっていく、職員にとっては働きがいとなり理念に基づいたケアにつながっていくよう、今後の取り組みに期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の下ごしらえ・盛り付け・食器の配膳・テーブル拭き等に、参加して頂いているが“危険・出来ないのでは・・・”という思いから職員が手を出してしまい、入居者の持てる力を発揮して頂ける場面が少なくなっている。職員も一緒に食卓につき必要な介助を行いながら、食事を楽しんで頂ける様に旬の食材や皿うどん等の郷土料理を取り入れたり、食事制限がある方についても器や盛り付けを工夫し、他の利用者と見た目が変わらないようにしている。	○	ゆっくり時間をかけて本人が出来る事は何かをしっかりと把握し、側で見守りながら残存能力の活用につなげ、力を発揮出来る場面作りが増えていく事に期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の時間帯・回数をおお程度決めているが希望をお聞きし、時間帯によっては難しい場合もあるが、シャワー・部分浴・清拭等で対応している。一人ずつ入浴して頂いているが、危険がない部分については扉の外から様子を窺ったり、入浴剤を利用し楽しんで頂けるよう工夫している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者毎に生活歴・趣味・習慣を活かした楽しみ事を、他にも持って頂き活力を引き出せるよう働きかけは行っているが、職員が手を出し過ぎてしまい、入居者自身で出来る役割等が減少している。テレビを見たり新聞を読んだり、季節・行事毎の絵を描いたり野菜・花・植木の水やりや、家族とのドライブ・近くや行きつけの店に買い物に行ったり、レクリエーションが楽しめるよう支援している。	○	職員のペースでケアをしている部分が見られ、入居者の視点で役割として担って頂ける部分を減少させないように、常に意識し支援される事に期待したい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の生活歴を把握しスーパーに買い物に行ったり、以前行っていた公園にドライブに行く等心掛け、外出した時に“フツ”と言葉にされる事を聞かせて頂いている。もやしの根切りをすると手が痛い、と言われる方も一緒に買い物に行った時、ビンが入っている買い物袋を持たれたり、場所が変わる事で気分も変わり、新たな力が発揮出来る事に職員も気づいている。	○	ホームの中だけの生活ではなく、日常的な外出により五感刺激や気分転換が図れ、新たな力の発揮にもつながる事を意識し、職員も楽しみながら今後も出来るだけ戸外に出かけられるような支援に期待したい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	防犯上20時～6時までは施錠しているが、玄関等施錠せずエレベーター等入居者が自由に使えるようになっている。入居者の安全確保の為に廊下やホールにカーブミラーが設置され、職員が作業する位置の工夫や介助しながら声を掛け合う等行っている。落ち着かれなくなる時間帯など把握し見守りを強化したり、1人で外出された時にも馴染みの方に連絡をして頂くよう協力を依頼している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	代表者・管理者が防火管理者講習に参加し火災を想定した消防署との合同訓練や、防災業者との自主訓練を職員・入居者と共に行っている。地域の方に訓練等の参加依頼は行っていないが、運営推進会議や町内会を通じ、何かあった時には協力して頂けるようお願いしている。災害に対する備品等の準備も特にされていない。	○	定期的に入居者・家族・地域の方も含め訓練を積み重ねていく事で、災害時の適切な対応・避難誘導につながっていく。食料や飲料水の準備等について何をどれ位準備すれば良いのか、職員と話し合い災害時対策の充実に期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを把握し小さく切ったり、おにぎり・ふりかけの利用やお粥にしたり、食材を変える・お弁当にする・食べる場所を変える等、カロリー不足にならないよう食事摂取量の把握に努めている。飲水量の確認が必要な時は飲水チェック表の利用や、好みによって飲み物の種類を選べるようにし必要摂取量の確保を行う等、一日を通じた食事量・バランスに配慮すると共に、定期的な体重測定・血液検査の結果に基づき医師からの助言を受けている。	○	栄養面からの専門的な献立チェックやアドバイスを頂きながら、食事摂取量・バランス等についての検討を行い、入居者の体調管理につなげられるよう今後の取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの一角には一段高い畳の間があり、洗濯物をたたんだり日中は自室ではなく布団を敷いて休まれ、横になったまま時折、皆の話題の中に入って笑顔が見られたりしている。窓からは明るい陽射しと通りを挟んだ中学校の校庭や杉山が見渡せ、廊下等の共用空間には、入居者が描かれた季節毎の行事の絵が飾られ、明るい雰囲気の中で暮らせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者や家族と相談しながら、箆笥・棚・椅子・絵を描く為のイーゼルや絵の具、人形等使い慣れたものを持ち込んで頂いたり、配偶者の遺影を飾られ毎日お茶・水のお供え等支援し、居心地良く過ごせるよう努めている。家族の写真や植木、日用品等についても好みの物を出来るだけ持ってきて頂けるよう引き続き声かけを行っている。		